

(様式1)

平成23年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 049	提案機関名 農業技術センター三浦半島地区事務所
<b>要望問題名</b> 冬作物の作型別及び土壌区分・土壌群別、養分供給量と収量及び品質に関するデータベースの構築	
<b>要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】</b> 一般的に作物への養分供給と収量の関係で、収量目標を達成するためには施肥量をやや過剰にすればよいと考えられるが、養分の過剰供給は農産物の品質低下及び作物に吸収されない余分な窒素など溶脱により、資源の無駄であり、地下水の硝酸汚染などの環境負荷を招くことも考えられる。 作物の各養分要求時期に、過不足無く各成分が供給されることが重要である。こうしたことから、主力作物であるダイコン、キャベツの養分吸収量と、施肥及び施肥以外に施用された有機物、土壌そのものから供給される養分量との関係を解明するとともに、作型別及び土壌区分・土壌群別に養分供給量（施肥量＋有機物及び土壌からの養分供給量）と収量及び品質に関するデータベースを構築する必要がある。 横須賀市、三浦市での作付け状況（平成20～21年神奈川農林水産統計年報より）	
<b>解決希望年限</b>	①1年以内 ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 ④5～10年以内
<b>対応を希望する研究機関名</b>	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術所 <input type="checkbox"/> ③水産技術センター <input type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
<b>備考</b>	行政、普及、研究、農業者団体等の一体となった取組が必要である。

<b>回答機関名</b>	農業技術センター 畜産技術センター	<b>担当部所</b>	三浦半島地区事務所、農業環境研究部、企画経営担当
<b>対応区分</b>	<input type="checkbox"/> ①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 <input type="checkbox"/> ③継続検討 <input type="checkbox"/> ④実施済 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 <input type="checkbox"/> ⑥現地対応 <input type="checkbox"/> ⑦実施不可		
<b>試験研究課題名</b>	(①、②、④の場合) 硝酸性窒素溶脱防止のための施肥及び土壌管理技術の確立 適正施肥のための土壌環境モニタリング調査 堆肥特性評価指標の策定と堆肥由来成分を考慮した効率的施肥法の確立		
<b>対応の内容等</b>	キャベツ、ダイコンの施肥量については、三浦半島地区事務所において「冬どり青首ダイコンの窒素吸収特性」（平成8年度）や「春キャベツに対する被覆肥料の利用試験」（平成9年度）により吸収特性が明らかにされ、農業環境研究部においては「適正施肥のための土壌環境モニタリング調査」により、土壌環境の経時的変化や管理実態等の調査、「堆肥特性評価指標の策定と堆肥由来成分を考慮した効率的施肥法の確立」において各種家畜ふん堆肥の肥料効果の評価方法について試験しています。また、畜産技術センターには家畜ふん堆肥の生産方法に関する情報がありますので、引き続き、現在実施中の「硝酸性窒素溶脱防止のための施肥及び土壌管理技術の確立」において、施肥効率の向上や硝酸性窒素の溶脱軽減について検討します。また、データベース化については、「神奈川県作物別施肥基準」にたい肥の有効成分量の評価法や品目別・作型別の適性施肥量が示されており、普及指導の参考として十分と考えておりますが、地力窒素供給量等の新たな現地調査が必要な場合には、ご協力します。		
<b>解決予定年限</b>	①1年以内 ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 ④5～10年以内		